

家庭内での性別役割分担について

李 昌翼（韓国）

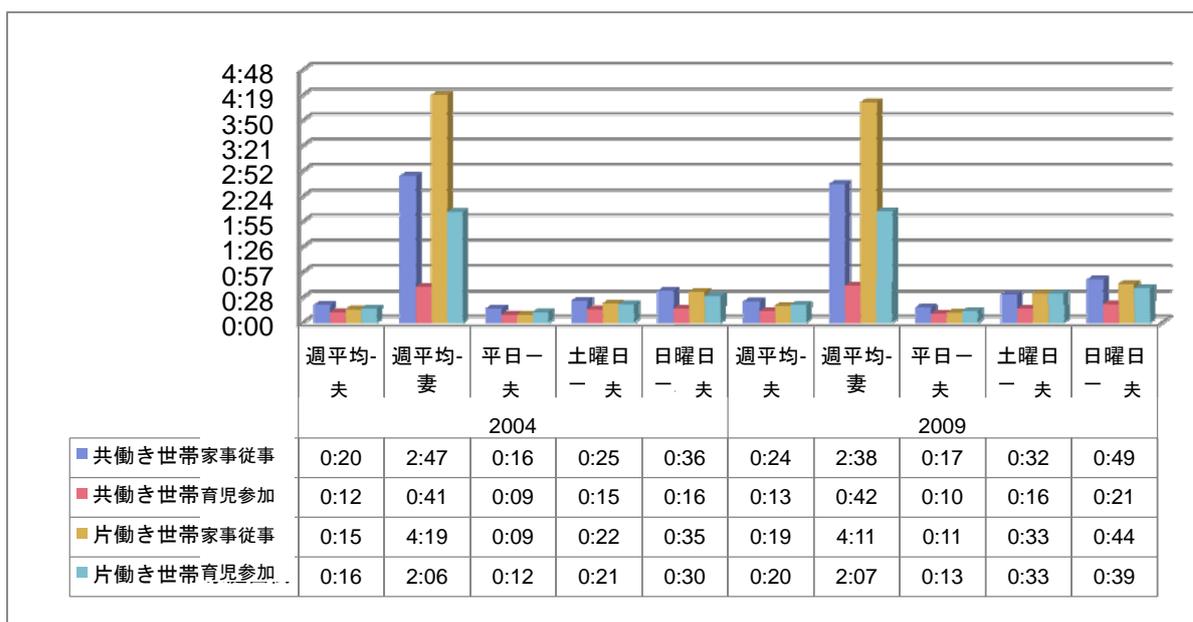
最近、韓国の統計庁は『生活実態調査(2009)』を発表しました。その中に共働き世帯と片働き世帯が家庭内で役割を分担した時間について調査した内容を2004年と比較してみることにします(図1参照)。

共働き世帯の家事従事時間は夫が4分増えて24分になり、妻は9分減少して2時間38分となりました。共働き世帯の育児参加時間は夫が1分増えて13分になり、妻も1分増えて42分となりました。

片働き世帯の家事従事時間は夫が4分増えて19分になり、妻は8分減少して4時間11分となりました。共働き世帯の育児参加時間は夫が4分増えて20分になり、妻も1分増えて2時間7分となりました。

図1 共働き世帯・片働き世帯別役割分担平均時間(2004～2009)

単位：時間:分



資料：統計庁『生活実態調査』2004，2009.

このような結果からみると、まず、共働き世帯と片働き世帯の家事従事時間において夫が働く時間は増え、妻が働く時間は短くなりました。夫に、家庭内での掃除をはじめとするさまざまな役割分担が出来ているということです。特に、共働き世帯の夫は片働き世帯の夫よりも平日にしっかりとした様子が見えます。

次に、共働き世帯と片働き世帯の育児参加時間は夫婦ともに増えました。韓国でも核家族が進行し、過去と違い家族を大切に考える考え方が少しずつ広がっている様子で、過去のような男性中心の生活から男女平等な社会に向かって大きく変化しています。

特に、片働き世帯の夫の家庭への関心が高いことです。片働き世帯の多くは男性中心の家庭であるため、休みの日に出来る限り、家庭のために時間を使う傾向があるということです。実際にわが家でも休日になると、妻と息子のために、週に 1 回は出来れば会食をするようにします。

しかしながら、時代は共働き世帯が少しずつ増加する傾向であるにもかかわらず、共働き世帯の家庭内での役割分担は、平均的に 2 時間以上の差があり、平等な社会としては、未だ遥かに遠い感じがします。

それでは、この問題を解決するため、われわれは何をすればよいのでしょうか。家庭内での性別役割分担については、個人的には、家庭を大切にしていることを頭で考えずに行動で表現する必要があると思います。社会全体としては、人間の意識を転換させることが出来る普遍的な教育が幼い時から積極的に行われていなければならないと思います。